

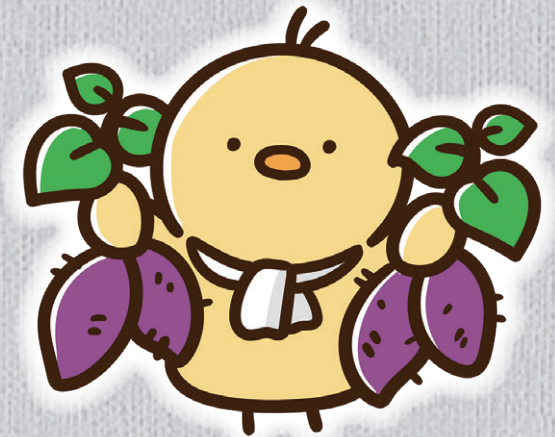
くす通信

第293号
2025年10月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

眼科より

白内障について 白内障の手術について



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

白内障の手術について

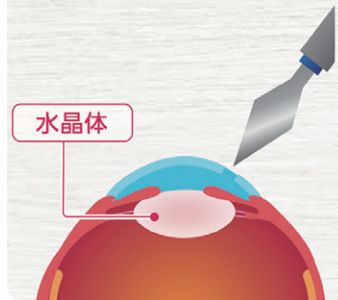
白内障の手術はほとんどの場合、局所麻酔で行います。局所麻酔は歯医者での治療と同じで意識はある状態なのでお話ができますが、目の中のとても細かい手術ですので目がキョロキョロ動いたり、体が動くと危険なので、力を抜いてぼんやり真っ直ぐ見ていてもらいます。当院の場合は、不安が非常に強い人、もしくは精神疾患や認知症で術中動いてしまう可能性がある人には点滴から眠るお薬を入れる静脈麻酔(胃カメラの時などに使用する薬剤です)を使用しているのが特徴です。しかし、静脈麻酔には呼吸が不安定になったり、血圧に影響が出たりすることもありますので呼吸器の病気や心疾患をお持ちの方は静脈麻酔が難しいこともあります。

ベッドに仰向けに寝てもらい、点眼麻酔をしてから目元をしっかり消毒した後、清潔なシートをお顔に被せていきます。手術中は瞬きしないでいいように瞼を引っ張って固定する機械を付けます。追加で点眼と白目のところに注射で麻酔を行い、痛みを取りますが、触っている感覚は残ります。顕微鏡で光を当てながら手術をしていきますので最初は眩しいですが、次第に慣れていきますので心配されなくて大丈夫です。

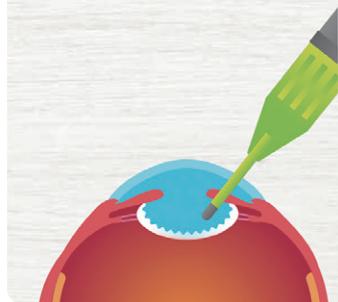
黒目に1~2mm程度の小さな傷を2箇所、2~3mmの傷を1箇所作り、そこから眼の中に機械を出し入れして手術をしていきます。水晶体は透明な袋に包まれているので袋の前の部分を丸く切り取り、中身の濁った水晶体を超音波で細かく碎きながら吸い取っていきます。水晶体はレンズの役割をしており、取り除いただけだとピントが合わなくなりますので、代わりの人工レンズを袋の中に入れます。傷口は縫わないことが多いため、術後の異物感もほとんどありません。人工レンズは、当院では基本的に単焦点レンズのみの取り扱いです。遠くか近くか1箇所にピントが合うレンズで、それ以外の部分は眼鏡で見てもらうようなイメージです。最近よく耳にする多焦点レンズは、現状では基本的に個人眼科やクリニックでの取り扱いが多いです。気になる方は一度相談されてみるといいと思います。

当院は入院での白内障手術のみを行っており、片目だと2泊3日、両目だと5泊6日を基本としています。術後点眼は数週間~場合によっては数ヶ月必要になることもありますので、ご高齢の方の場合はご家族のサポートも重要になります。何かご不明な点があれば、お気軽にお問い合わせください。

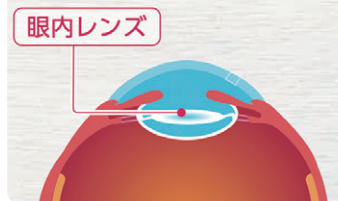
Step.1 目に小さな切開を入れます



Step.2 濁った水晶体を取りのぞきます



Step.3 眼内レンズを挿入します



出典：Santen medical channel

白内障について

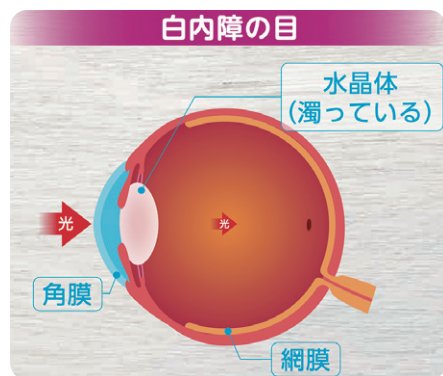
眼科医師
なかはら あつこ
中原 敦子



白内障は眼の中の水晶体という、カメラでいうレンズの役割をしている部分が一部または全体的に濁ってくる病気です。原因は様々で先天性のものや加齢、紫外線・放射線、喫煙、ステロイドのような薬剤、糖尿病などです。その中でも主な原因は加齢で、50代頃から増え始め、70代や80代で白内障手術が必要になる方が多いです。

白内障の初期は自覚症状がないことも多く、進行に伴い、かすみやぼやけ、視力低下、眩しさを感じるようになります。

白内障の診断は、眼科で散瞳検査さんどうけんさをします。瞳孔は明るいところで眩しくないように小さくなったり、暗いところでより多くの光を取り入れるために大きくなったりしていますが白内障になる水晶体という部分は虹彩（茶目）の後ろにあり、瞳



出典：Santen medical channel

孔が小さいと詳しい診察ができないため、強制的に瞳孔を広げる散瞳薬という点眼で検査をしています。散瞳薬の効果は点眼してから15～20分程度で出てくるので、その頃に診察はできますが診察後も効果が4～5時間続き（持続時間には個人差があります）、ピントが合いづらくなったり外に出たときに普段より眩しく感じ危険なため、基本的にご自身の運転は避けていただきます。

もし、最近見えづらい、白内障かな？と思われる方は、ご家族に送迎していただくか公共交通機関で来院されると検査がスムーズにいくかと思います。

初期の白内障であれば、進行予防の点眼薬で様子を見ていきます。ただし、あくまで進行を遅らせる薬であり治療薬ではないため、加齢とともに少しずつ進行していきます。

白内障の手術時期としては明確には決められていませんが、一般的に視力が下がって日常生活に不便が出てくれば手術適応とすることが多いです。運転される人の場合は免許更新で視力低下を指摘され、慌てて眼科を受診し、白内障が判明する方が多いです。普通自動車免許の場合は、両目で0.7以上見えることが条件なので0.7くらいまで下がってきた場合は手術を勧めます。

ただし、視力が良くても症状が強い場合は、本人と相談の上、手術を検討することもあります。見えづらい、霞む、光が眩しく感じるなどの症状がある方は、一度眼科を受診することをお勧めします。

眼科の紹介

眼科は感覚器センターの1部門として、他の診療科とも協力しながら診療を行っております。外来診療は、眼科医師3名、視機能訓練士2名、看護師3～4名、医師事務補助者1名で行っています。視力、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、視野検査といった基本的な検査はもちろん、疾患に応じた他の眼科精密検査も行います。また、場合によっては、血液検査やCT・MRIといった検査も組み合わせて行うこともあります。入院診療に関しては、白内障手術が中心とはなりますが認知症や精神疾患等で個人病院では手術できない方を多く引き受けていることが当院の特徴です。その他、眼の外傷や入院での薬物治療が必要な方の入院を引き受けております。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 受付時間 8:15～11:00
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501（代表）
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。